

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大阪市小阪2 新築工事	階数	地上15F
建設地	東大阪市小阪2丁目	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	105 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年9月4日
敷地面積	582 m <sup>2</sup>	作成者	Urubano Design 安松高志
建築面積	250 m <sup>2</sup>	確認日	2019年9月12日
延床面積	2,812 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社TOKI設計 辻 久美子



ください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 82%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	街並みに調和が取れるよう建物の色彩や植栽計画に配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を使用することによって、室内環境に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を適切に配置している。
LR1 エネルギー	特になし。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないため、光害への抑制に寄与している。
Q2 サービス性能	高度情報通信設備に対応している。	
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を採用することで、水資源に配慮している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0088

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)東大阪市小阪2 新築工事							
	建設地	東大阪市小阪2丁目							
	用途/区分	集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B-					
①	CO2削減			4					
②	みどり・ヒート アイランド対策			2					
③	建物の断熱性			3					
④	エネルギー削減			3					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

## エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.9	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—

## その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		